



丘珠縄文遺跡の調査 1

—平成25・26年度調査—

概要版

札幌市教育委員会
2016

丘珠縄文遺跡の調査

えっちごひやくはち

おかだまじょうもんいせき

H508 遺跡(通称「丘珠縄文遺跡」)は、札幌市東区丘珠町のサッポロさとらんど内に所在します。さとらんどの造成に先立ち、平成4・5年に実施した試掘調査で、縄文文化晩期(以下「縄文晩期」)の土器や石器が発見され、これまで現地の地下に保存されてきました。この遺跡を活用して、遺跡公園を整備する事業が、平成23年度に『第3次札幌新まちづくり計画』に位置付けられ、遺跡の内容を具体的に把握するために、平成25・26年度に、延べ371名に及び市民ボランティアの参加・協力のもと確認調査(部分的な発掘調査)を行いました。



丘珠縄文遺跡の位置

【確認調査期間】

平成25年6月24日～9月19日

平成26年6月23日～10月10日

【整理及び報告書作成期間】

平成25～27年度

【調査面積】(※トレンチ調査面積)

平成25年度：133㎡

平成26年度：109㎡

【市民ボランティア参加人数】

平成25年度：延べ168人

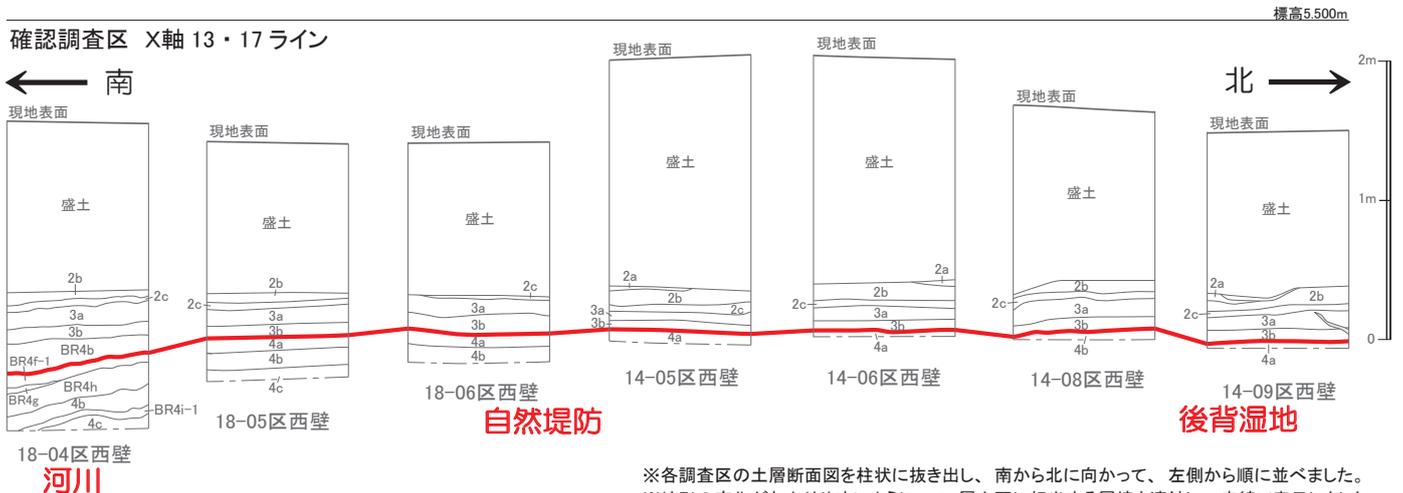
平成26年度：延べ203人

さとらんどの遺跡

さとらんどでは、丘珠縄文遺跡の他に2カ所の遺跡が見つかっています。一つは、現在の「ミルクの郷」(サツラク農業協同組合牛乳工場)付近から見つかった擦文文化と続縄文文化の遺跡(H317遺跡)です。この遺跡からは、工場の建設に先立って平成4・5年に実施した発掘調査で、擦文文化の竪穴住居跡12軒や続縄文文化の炉跡93カ所が発見されました。もう一つは、現在の農業支援センターの圃場付近から見つかった続縄文文化の小規模な遺跡(H509遺跡)です。

遺跡の地形

丘珠縄文遺跡は、札幌市の北部に広がる沖積平野(石狩平野)と呼ばれる低地部に位置しています。確認調査では、遺跡の南東端で、河川の河道から河岸斜面に相当する、南方向に傾斜していく土層の堆積が確認され、縄文晩期頃の河川は、遺跡の南辺をかすめるように流れていたことがわかりました。確認された河川は、近接するH317遺跡の7層の調査で想定された続縄文文化初頭頃に流れていた河川と一連のものと考えられます。



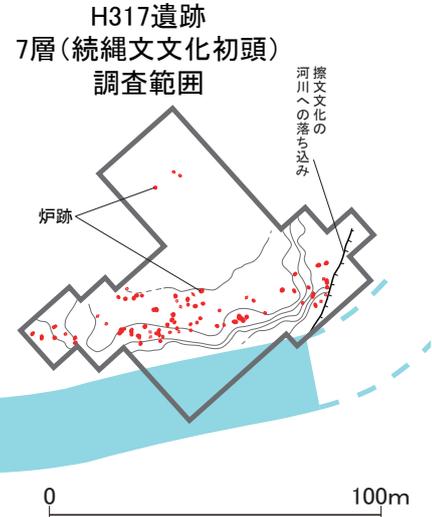
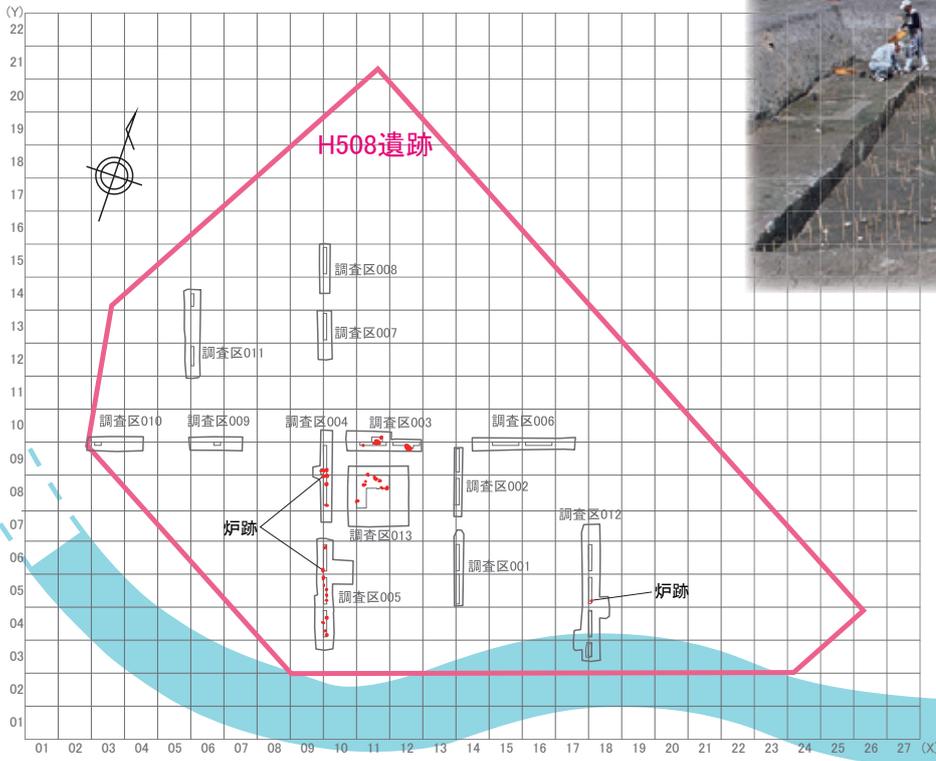
※各調査区の土層断面図を柱状に抜き出し、南から北に向かって、左側から順に並べました。
※地形の変化がわかりやすいように、4a層上面に相当する層境を連結し、赤線で表示しました。

丘珠縄文遺跡の地層と地形

左端の南に傾斜する地形が河川に、その右側の地形の高まりが自然堤防に、右端のやや低くなった地形が後背湿地に相当します。



調査区 013 遺物出土状況



縄文晩期後葉～続縄文前葉頃の推定河川流路
 ※河川幅は不明であり、上図の河川幅に根拠はありません。 ※図中の赤い点はすべて炉跡を示しています。

確認調査区の配置と想定される河川の流路



トレンチの掘削作業 (調査区 012)



遺物の検出作業 (調査区 004)



遺物の検出作業 (調査区 013)

遺跡の時期

確認調査では、5枚の遺物包含層が確認されました(3a層、3b層、4a層、4b層、4c層)。出土した土器の特徴から、3a・3b層が続縄文前葉頃、4a～4c層が縄文晩期後葉～続縄文初頭頃に相当するものと考えられます。したがって、丘珠縄文遺跡は、縄文晩期後葉以降に、札幌北部の平野部に人々が進出し、河川に沿った自然堤防上を活動の拠点として、続縄文前葉頃まで繰り返し利用したことによってのこされた遺跡と考えられます。

本州の時代区分 Chronological periods of mainland Japan	旧石器文化 Old Stone Age culture	縄文文化 Jomon culture						弥生文化 Yayoi culture	古墳文化 Kofun culture	飛鳥時代 Asuka period	奈良時代 Nara period	平安時代 Heian period	鎌倉時代 Kamakura period	室町時代 Muromachi period	安土桃山時代 Azuchi-Momoyama period	江戸時代 Edo period
		草創期 Incipient	早期 Initial	前期 Early	中期 Middle	後期 Late	晩期 Final									
年代 Age	20000年前	16000-15000年前	10000年前	7000年前	5500年前	4500年前	3000年前	2300年前	1300年前	800年前						
北海道の時代区分 Chronological periods of Hokkaido	旧石器文化 Old Stone Age culture	縄文文化 Jomon culture						続縄文文化 Zoku-Jomon culture	オホーツク文化 Okhotsk culture	擦文文化 Satsunon culture	アイヌ文化期 Ainu culture period					
		草創期 Incipient	早期 Initial	前期 Early	中期 Middle	後期 Late	晩期 Final									

※北海道の時代区分は、考古学における一般的な時代区分です。

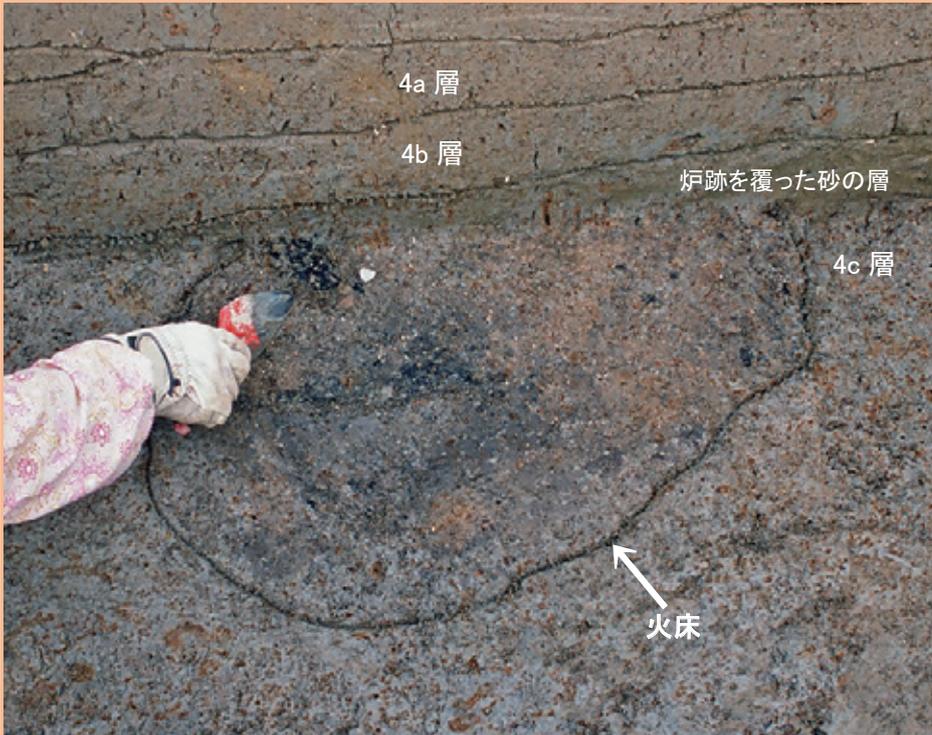
丘珠縄文遺跡

北海道の時代区分と丘珠縄文遺跡の位置づけ

発見された遺構

確認調査では、3つの地層（4a・4b・4c層）から、炉跡26カ所、焼土粒集中8カ所、炭化物集中4カ所が発見されました。これらの遺構は、当時の河川に沿った自然堤防の上に、集中して分布していることがわかりました。炉跡の周囲からは、その場所ですべれたような状態で出土した土器（一括土器）、石の鏃やナイフなどの様々な石器、石器をつくる際に出る石の欠片（剥片・砕片）などが見つっています。今後、出土した遺物の分布状況や接合状況を詳細に検討していくことで、炉を拠点とした当時の活動の様子を明らかにしていきたいと考えています。

炉跡（4HE21）の調査（4c層）



写真中央に赤く見える楕円形の範囲が、炉跡の火床です。火を焚いたことによって、土が熱を受けて焼け、赤く変色しています。火床の上に黒く見える塊や粒は、燃料に使った薪の燃えカスと考えられます。また、写真奥の調査区の壁を見ると、炉跡の上に、河川の氾濫によって運ばれてきた砂の層が堆積していることがわかります。この砂の層に覆われてパッキングされたことで、この炉跡は当時の状態のまま保存されていました。

炉跡（4HE02）の調査（4b層）



炉跡などの土の中から見つかった微細な遺物

炉跡などの周囲で採取した土の中から見つかった微細な遺物を調べた結果、石器の材料となる黒曜石や頁岩などの小さな欠片（碎片）、植物の種子、動物や魚の骨の欠片などが見つかりました。これらの微細な遺物の内容から、炉の周囲では、黒曜石や頁岩などを打ち割って石器をつくり、採集してきたクルミの殻を割ったり、狩りや漁でとってきた動物や魚を解体・調理したりしていたものと推測されます。

微細遺物については整理途中であるため、今後の作業の進展に伴って、新しい発見があるかもしれません。

黒曜石や頁岩の細かい欠片（碎片）



植物の種子など



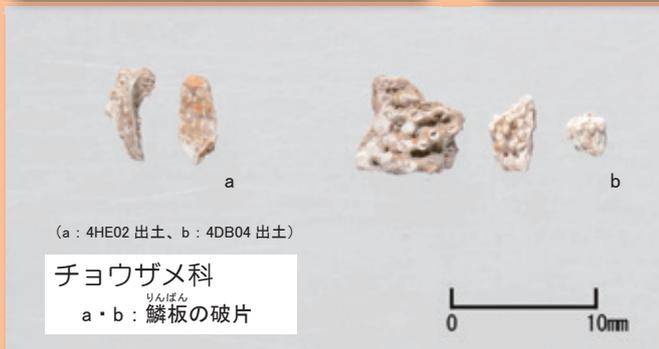
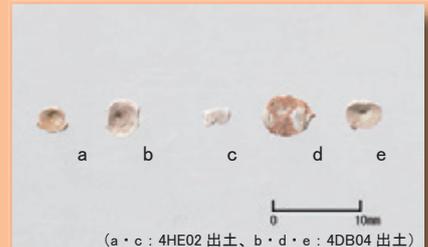
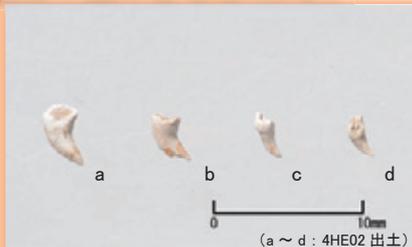
ヒエ属の種子

左の写真上段の種子は 4a 層で検出した焼土粒集中 (4DB04) から、下段の種子は 4b 層で検出した炉跡 (4HE02) から見つかりました。この他に、4a 層で検出した炉跡 (4HE20) からヒエ属の種子が見つかりています。

続縄文文化初頭の H317 遺跡からはヒエ属の種子が見つかりますが、縄文文化の遺跡からは、市内ではじめての発見です。



動物や魚の骨などの欠片



丘珠縄文遺跡から出土した遺物

確認調査では、5枚の遺物包含層から、合計で6,600点以上（総重量約121kg）の遺物が出土しました。縄文晩期後葉から続縄文前葉頃にかけての土器や石器とともに、本州北部の縄文晩期に特徴的な遺物であるイモガイ形土製品や、本州北部の弥生文化初頭の土器なども出土しています。今回の調査で見つかった遺物は、今後、縄文文化の終わりから続縄文文化にかけての暮らしぶりや、本州や北海道の他地域との交流の様子を考えていく上で、とても貴重な資料です。



出土した土器（4層）



出土した土器（3層）



試掘調査（平成4・5年）で出土した土器



イモガイ形土製品（長径約 7.6cm）

暖かい海に生息する貝であるイモガイの貝殻の先端（殻頂部）を模造したものと考えられています。



砂沢式土器

東北地方北部の弥生文化初頭に位置づけられる砂沢式土器の破片資料で、「変形工字文」と呼ばれる特徴的な文様がつけられています。東北地方北部から持ち込まれたものと考えられます。



出土した石器

石を打ち割ってつくった石鏃、石錐、ナイフ、搔器、石を磨いてつくった石斧、川原石を持ち込んで利用した砥石、磨石、敲石などの道具とともに、石器をつくる際に打ち割られた剥片が多量に出土しました。これらの石器は、黒曜石を中心として、頁岩、泥岩、メノウ、凝灰岩、片岩、安山岩など、多様な石材によってつくられています。



琥珀製の平玉

樹液の化石である琥珀を用いて製作された装飾品です。直径約 1cm、厚さ 0.3～0.6cm 程で、丁寧に磨かれています。



琥珀製平玉の出土状況

琥珀製の平玉は、平成 26 年度の調査で、3b 層から出土しました。

市民ボランティアによる発掘調査 ～『市民が育てる成長する遺跡公園』～

平成25年度の記録



調査の前には準備体操



道具を持って調査区へ



まずは遺跡を見学します



トレンチ掘りスタート



道具を片付けて、
お疲れ様でした！



1日の終わりにミーティング



遺物を少しずつ掘り出します



包含層は慎重に掘ります

平成26年度の記録



おはようございます！
今日も1日
よろしくお願いします！



調査の前には準備体操



まずは遺跡を見学します



慎重に遺物を掘り出します



道具を片付けて、
お疲れ様でした！



遺物の水洗い
～雨の日のお楽しみ～



雨降り後の水抜き作業も経験



皆で作業内容を確認

丘珠縄文遺跡の調査 1

—平成25・26年度調査—

概要版

編集 札幌市埋蔵文化財センター
〒064-0922
札幌市中央区南22条西13丁目
TEL (011) 512-5430
FAX (011) 512-5467

発行 札幌市教育委員会
発行日 2016年3月25日

SAPPORO



さっぽろ市
02-J02-16-136
28-2-98